

# 令和7年度 伊那市立手良小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
伊那市教育理念「はじめに子どもありき」	めざす手良っこの姿 『みんなと学ぶ』・『みんなが笑顔』・『みんなと一緒に』
校訓「思いやり」	今年度の重点目標
やさしい子【情操】	(1) 少人数を生かした個別最適な学び、協働的な学びの充実をはかり、予測困難な時代を生きていく基となる資質・能力を育てる。
かしこい子【創造】	(2) 自分と他者を大切に、互いを認め合い、思い合える人間関係づくりを進め、一人ひとりの自己肯定感・有用感を高める。
やりぬく子【意志】	(3) 地域や家庭と協働した活動や保育園との交流を通して、ふるさと「手良」への愛着を深め、地域の一員としての意識を高める。
元気な子【活力】	

総合評価		
○小規模校の特徴を生かした縦割り班の活動や地域をフィールドとした全校行事「手良の自然に親しむ日」の活動、手良の秋祭りへの参加など、地域に根差した教育活動を通して、地域の方や保護者に肯定的に受け止めていただいている。 ○学校アンケートによると、ほぼ100%の児童が「学校が楽しい」「授業はわかりやすい」と回答しており、学校生活に満足していることがわかる。更に一人ひとりの児童の自己肯定感を高めるため、児童理解に努め、どの子も生き生き活躍できるような場面作り・授業づくりを目指していきたい。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) ICTの利活用が日常化し、授業の中で共同追究の時間を確保し、共同閲覧で友だちの考えを知り、自分の考えをより深めるための手段になりつつある。しかし、依然として授業におけるICT活用の学級格差が大きい。	A b	○互いの授業を見合う機会を日常的に設け、職員同士の学びを深めたい。ICT活用に限らず、授業づくりや単元構想、子どもの見方などについて、対話を通して学び合うことのできる職員集団を目指したい。
(2) なかよし旬間・なかよし月間で友だちの良いところに目を向ける活動を多く取り入れた。縦割り班の活動を通して、他学年の友だちとの関係が深まり、仲良く遊ぶ姿が増えた。	A a	○「ひとみウィーク」を活用して、子どもの本音や悩み事を聞き取り、職員間で共有、複数の職員で対応、必要に応じて校内支援会議を適時実施する。
(3) 地域の秋祭り、公民館活動等への積極的参加、地域の方によるクラブ指導や学習ボランティア等、地域の方々との交流ができた。保育園とは気楽に行き来でき、日常的に交流できた。	B a	○地域の方と協働して総合的な学習が展開できるよう、公民館との連絡を密にし、地域の人材を更に見つける。「手良の自然に親しむ日」の内容を工夫し、手良をよく知る機会とする。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○連学年授業・単元内教科担任制の試行	○教職員それぞれの専門性を発揮し、充実した授業の実践ができたか。複数職員で児童理解を進めることができたか。
		○新山小学校との合同学習・交流活動(小小連携)	○小規模校同士の交流や遠隔授業を通して、人との関わりを広げ、小小連携の教育活動が展開できたか。
	学習指導	○協働的な学びを軸にした授業づくり	○「一斉教授型の授業」から「対話型の授業」、「教える授業」から「教えない授業」へ、これまでの授業観を更新しつつ、授業づくりを進めることができたか。
		○教科等横断的で、子どもの思いや願いを大事にした学習の展開	○子どもたちの言葉を大切に、子どもたちの意識にそった学習問題・学習課題を据えることができたか。その追究は意欲的で深まりのあるものになったか。
		○ICTの利活用	○クラウドの共有・共同編集機能を存分に活用し、協働的な学習を展開できたか。
生徒指導	○対話による児童理解と支援	○日常的に受容、共感、肯定を大事にして子どもたちの声に耳を傾け、声がけを大事にし、子どもたちの自己肯定感・有用感を高めることができたか。	
	○素早い情報共有と対応で児童・保護者へのチーム支援	○素早い情報共有と対応の方向性の確認により、具体的な対応をとることができたか。	
学校運営	安全	○防災教育の充実と安全な環境づくり	○自らの身を守るために、その場で判断し、進んで行動できるような指導ができたか。
		○登下校時における安全確保・安全指導	○登下校における安全、休日等の安全な過ごし方など、日常生活の安全指導ができたか。
	地域との連携	○手良保育園との連携	○保育園の「遊び」から小学校の「学び」へ。保小が一貫しためざす子ども像を描き、具体的な取り組みがなされたか。
○地域(PTA・各種団体)との連携		○地域の方々との活動や学習、体験を通して、ふるさと「手良」への愛着を持ち、自分も手良の一員である自覚と地域の方に支えられている意識を高めることができたか。	
○学校情報の発信		○学校ホームページ、学校・学年だより等各種通信によって情報を発信し、学校の今を、子どもの学びを発信することができたか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○少人数単級であることを生かして連学年合同体育を継続して実施した。少人数ではできない球技や表現などに取り組めた。職員の苦手な部分を補い合うことができ、指導の幅が広がるとともに、複数の眼で児童理解を深めることにつながった。また、連学年の児童同士のかかわりが増え、人間関係の広がりが見られた。	B a	○連学年体育だけでなく、単元ごとの授業者交換や複数学年による他教科の学習などに取り組めるような時間割の工夫をする。担任や専科以外の教職員がとらえた子どもの姿をC4th等で共有し、子ども観や児童理解を深めたい。
○事前学習や係活動をオンラインで行い、4年生の長野見学を合同で実施した。また道徳の遠隔授業や対面での交流も複数回実施でき、親交を深めるだけでなく共に学ぶ仲間としての絆を深めた。	A a	○数年後の宿泊を伴う校外学習の合同実施に向けて、学校間で調整中。保護者にも理解を得られるよう経緯を丁寧に説明していく。 ○日常的な交流ができるよう、交流内容の検討、遠隔授業のための環境整備を進める。
○授業の基本である「ねらい・めりはり・みとどけ」が不十分な様子が見られる。子ども達が問いをもって協働的に追究する授業を目指して改善の余地が大きい。	B c	○授業観や子ども観について対話を通して職員間で共有し、更新していけるような研究の仕組み作りをしていく。一人一公開等、互いに授業を見合い授業力向上に努める。
○生活科・総合的な学習の時間において、オペレッタ、米作り、手良小祭り、手良小郵便局などの中核的な活動を軸に、子ども達が主体的に追究し、他者と関わりながら活動を広げていた。	B b	○子ども達の願いをもとに、教科横断的な活動の立ち上げについて複数の職員で共有し、活動の可能性や発展性について検討するなど、総合的な学習の展開を考える。 ○地域の「人・もの・こと」と子ども達の活動をつなげるための人事バンクや情報収集に努める。
○ポスター作りやプレゼンテーション用のスライド作りなどを通して、目的に応じてアプリや機能を使いこなす力がついてきた。話し合う内容を考え準備するためのツールとしてタブレットが位置づいてきた。 ○考えを共有するだけになってしまうことがある。学びを深めるための話し合いや新たな気づきにつなげるための活用をしていきたい。	B b	○職員間でお互いの授業を見合う機会や実践を伝え合う時間を増やし、ICTの利活用を促進する。 ○協働的な学習に向けたアプリや、自由進度学習に向けたアプリ等について知るための研修の場を設ける。
○毎学期のひとみウィークを有効活用し、担任と児童がじっくりと対話することで、一人ひとりの思いや困り感に寄り添うことができた。困りごとを担当に話せない児童もおり、対応が遅れた事案があった。	B b	○日常生活における困りごとや相談を気軽にできる関係性づくりを大切にしたい。またタブレットを用いた相談システムの活用、子どもと親の相談員の活動内容の周知などに努める。
○スクリーニング会議の意義が共有されておらず有効に働かなかった。学級指導や生徒指導について、課題を共有し複数の職員で対応する仕組みが不十分であった。生徒指導事案について、係を中心に情報共有がなされ、統一した指導が全校にできた。	B b	○サーバー内の生徒指導情報ファイルへの記録をこまめにし、全職員で情報共有し、チームで対応していく。引き続き「小さなはじめも見逃さない」という意識を持ち、学校全体の職員が目子どもたちの様子を見守っていくようにする。
○地震や火事の際、校舎内外のあらゆる場所で、想定される危険を予測できる力をつけるという目的で、方法を変えて訓練を行った。自分の身は自分で守る、という意識を持ちつつある。	A a	○様々な想定により、児童自ら命を守る行動ができる力、周囲の状況に合わせた判断ができる力をつけさせたい。危機管理マニュアルを見直し、様々な状況を想定して、有効な避難訓練ができるようにする。
○下校時刻のお知らせや学校便りを通して、PTAや子どもの安全見守り隊へ支援をお願いしてきた。安全確保に欠かせない存在ではあるが、協力者の高齢化や減少が課題となっている。 ○集団下校から個の下校になり、交通安全の意識向上を図った。	A b	○見守り隊の隊員減少は大きな課題。引き続き隊員の募集を行い、児童の安全を確保できるよう、地域の皆さんに協力を仰ぐ。PTAによるパトロールのあり方を見直す。
○手良保育園との保小連携を継続してきた。幼年教育研究大会を通して、多くの先生方にその様子を参観してもらい、多くの学びを得ることができた。 ○1年生の七夕行事、音楽会練習への招待、保育園での食育指導、来入児の学校体験等、保育園との交流を積極的に行うことができた。	A a	○今後も手良保育園職員と定期的に合同研修会を行い、一貫しためざす子ども像を共有したい。 ○運動会、音楽会等の行事以外にも、日常的に保育園交流ができるよう、連絡体制を整える。
○読み聞かせボランティア、クラブ講師、学習ボランティア、太鼓指導、トランペット鼓隊指導等、多くの方々に学校に来ていただき教育活動を支えていただいた。手良の秋祭りには複数の出店、ステージ発表等に多くの児童が参加し地域の方々との交流を深めた。地域の一員としての自覚を持つ機会となった。	A b	○学校ボランティアの募集や教師側の活動計画(願い、内容、推進方法等)を充実させ、地域の人材リストの拡張・活用を行っていく。地域の方と学校とでめざす子ども像を擦り合わせる機会を設け、協力をお願いしていきたい
○行事やイベントなどの記事をホームページに積極的に掲載した。毎月学校だよりを地域に回覧、またホームページにも掲載し、学校の様子を発信することに努めた。	A b	○学級だよりや学校ホームページは、今後もわかりやすさと適時性を心がけて配布・配信に努めていく。また、プレスリリースも積極的に利用し、児童の活躍の様子を広く地域に向けて発信するよう心がける。

研 修	○児童理解研修・授業研修	○児童理解、児童支援を進めるための、SC、SSW、巡回指導等の外部機関との連携、支援会議やスクリーニングを機能させることができたか。	○児童理解を深めるための研修として「Q-U研修」を行った。児童の特性の理解の仕方について学んだ。支援会議やスクリーニングのあり方について課題が残った。	B b	○配慮を要する児童や生徒指導事案等について、タイムリーに情報共有するための仕組みを整える。
	○職員研修の充実と工夫	○「学び続ける教師像」を求め、校内外における各種研究会や研修会に積極的に参加している。	○地域研修では地元の講師を招き、実際に現地に足を運んで手良地区の遺跡や文化財に触れ、郷土に親しむ研修ができた。 ○人権教育研修、特別支援教育研修、救急救命訓練、情報モラル研修等を実施し、研鑽を深めた。 ○校外の授業研修会や各種研修会に職員が積極的に参加し、その知見を校内に広める姿が多く見られた。	A b	○校内での授業公開を積極的に行い、授業づくり研修を積極的に実施したい。職員が一人ひとり自己課題をもって授業改善にあたるよう、研究体制を整えたい。 ○外部講師による研修のほか、校内職員同士のミニ研修を日常的にできる仕組みを作る。 ○センター研修や教育会主催の各種研修等、校外研修に安心して参加することができる補充体制を充実させたい。